

2023年10月11日リリース資料

監督自身の定年退職を、監督自らが描いた劇場用ドキュメンタリー映画

「365DAYs+」を11月25日より劇場公開いたします

DOWNTOWN TOKYO FILMS（ダウントン トキョウ フィルムズ）代表：北浦宏之 東京都 台東区浅草）は2023年11月25日（土）より 映画館 シネマ・ジャック&ベティ（神奈川県横浜市 中区 若葉町 3-51）において、新作映画「365DAYs+」（サンビヤクロクジユウコーデイズプラス）を公開致します。この映画は、定年退職を控えた当映画の主人公であり監督が、定年退職という今まで経験したことのない人生の転機に、戸惑い、揺れ動く気持を自身の手で撮影、製作したドキュメンタリー映画です。撮影においては全面、スマートフォンが使用されました。生活に溶け込み、被写体を緊張させず、自然な撮影が可能なスマートフォンは、被写体を「メンタリー」に表現できるドキュメンタリーの撮影に最適なツールで、当映画ではスマホ（ドキュ）メンタリーと呼び今後も広く使用していく予定です。

ストーリー

すべてのサラリーマンに必ず、そして等しく訪れる最期、それは定年退職。

世の中に定年退職をテーマにしたコンテンツは数あれど、その多くは退職後の手続き、マネープランや精神論をテーマにしたもの。いちばん知りたかった、定年に向き合った時の「気持ち」を描いたものに出会えなかった監督が、ならば自分が映画にしようと考えたのがこの作品です。58歳を迎える一人のサラリーマン（監督本人）に密着。一年後に59歳で早期退職するか、60歳で定年退職するか、さらには65歳まで雇用延長するか悩み、59歳での早期退職を決断。実際に退職の日を迎えるまでの一年間の揺れ動く気持ち、後悔、覚悟、突きつけられる現実、そしてサラリーマン最後の日をスマートフォンで撮影。さらには、退職から一年後の主人公の実像までを映像に収めました。退職する本人自らが自分の「退職劇」を描いた異色ドキュメンタリー作品です。

はたして定年退職ってハッピー？それとも・・・



監督

北浦宏之：1962年生まれ。レコード会社、広告代理店、放送局での36年間のサラリーマン生活を経て、59歳で早期退職。現在は主夫であり大学院生、そしてドキュメンタリーの製作者でもある。

記

タイトル：365DAYs+ (サンヒヤクロクシユウコ"デ"イズプラス)

作 品：2023年/日本映画/カラー/75分

上 映：シネマ・ジャック&ベティ（神奈川県 横浜市 中区 若葉町3-51）

製 作：DOWNTOWN TOKYO FILMS (ダウントン トキヨウ フィルムズ)

(代表 北浦宏之 東京都 台東区 浅草) ©DOWNTOWN TOKYO FILMS

撮影期間：2020年4月～2023年3月

出 演：柴田聰（ナレーション）

スタッフ：EDITOR & VISUAL DESIGN 望月浩久 SOUND MIXCER 松尾隆裕

DESIGN 後藤光 平田優樹 Natsumi

ASSOCIATE PRODUCE B.Style キューカンバー

配 給：カエルカフェ

問い合わせ先：DOWNTOWN TOKYO FILMS 北浦宏之

メール dttfilms@gmail.com 電話 090-2179-2672